

## 第 58 回大会準備状況

すでに、前回の会報でもお知らせしました通り、第 58 回大会は、2014 年 10 月 4 日（土）・5 日（日）に日本大学文理学部（東京都世田谷区桜上水）で開催します。

シンポジウムは、準備委員会で検討を重ねた結果、以下のような企画になりました。会員の皆様のふるっての御参加をお待ちしております。

\*\*\*\*\*

### 《テーマ》

教育史は現実の諸実践にどう影響をもちうるか

—— 教育史研究のレリバンスを問う ——

日 時：2014 年 10 月 4 日（土）14：00～17：50

場 所：日本大学文理学部百周年記念館国際会議場

報告者：大桃敏行会員（東京大学）

山名 淳会員（京都大学）

湯川嘉津美会員（上智大学）

指定討論者：

二井仁美会員（北海道教育大学旭川校）

森田尚人会員（元中央大学）

司会者：小國喜弘（東京大学）

広田照幸（日本大学）

### 《テーマ設定の趣旨》

戦後の教育史学は「現実の実践を指導する科学」を標榜してきた。「教育史学会設立趣意書」(1958 年)には次の記述がある。

「第二次大戦後の教育史学は、国の内外ともに著しい変化を来していることは周知のとおりであります。すなわち、第一に科学としての教育史学の方法論が問われていること、第二に教育史の研究が教師の教養と一般学術文化の進展とにどのような意味をもち、どのように位置づけられるかが問われていること、そして第三に、世界の教育史実の探求が自らの国と職域との教育活動の進路を見定めようという方向において統合されようとしていること、などがおもな特徴と言えると思います。一言にしていえば、教育史の研究が、外国書の翻訳や知識の集積や、史実の解釈などにとどまることなく、現実の実践を指

導する科学として、再出発しようとしているということでありましょう。」

ここでは、「実践」を広義にとらえ、教室内でのミクロな教育実践から、教育行政、教育政策などのマクロな課題への取り組みまでを含めたものとして考えておきたい。そうした現代における諸実践との関連性（レリバンス）を考えたとき、現代の教育史研究は、専門性と実証性を高めている一方で、「教育史学会設立趣意書」（1958 年）が目指したような理想からは、遠く離れつつあるようにも思われる。個々の研究が歴史学としての専門化を進めれば進めるほど、教育に関する眼前の動きについての洞察や議論に示唆を与える役割から乖離していくという印象が否めない。あるいは、教育史学が「現実の実践を指導する科学」たり得た時代はすでに過ぎ去りつつあるのだろうか。

本シンポジウムでは、歴史研究における事実と価値との関係の問題とは別の次元の問題として、教育史研究の視点や知見が目の前の教育事象に対してどのようなレリバンスをもっているのか／もちうるのかに焦点を当てる。教育史研究の学的性格や方法論と意義について広い視野から議論していきたい。

そこで、歴史的手法を用いて研究を進めてきた会員に、それぞれの研究において、現代教育へのレリバンスの問題をどう考えているのか、そして、現代教育の研究に歴史研究がどう生かされているのかを論じていただきながら、本テーマについての議論を深めていきたい。

\*\*\*\*\*

研究発表・コロキウムは、ここ 3 年の状況を踏ま

えて設定しました。多くの会員の皆様の発表、および企画のお申し込みをお待ちしております。

詳細につきましては、同封の「開催のご案内」を参照してください。例年通り、大会開催に関することは、ホームページで随時お知らせします。教育史学会のホームページにリンクしますので、ご参照いただければと存じます。

日本大学文理学部で前回教育史学会大会を開催し

たのは、第36回大会であり、22年も経過しました。施設・設備は当時に比べますと、若干ですが改善されていると思います。準備委員一同、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

第58回大会準備委員会事務局長

小野 雅章

## 機関誌編集委員会からの報告

機関誌編集委員会委員長 前田 一男

機関誌編集委員会を5月6日に立教大学で開催し、『日本の教育史学』第57集掲載論文を下記のとおり決定しました。

投稿受理論文数は、日本23本、東洋1本、西洋4本、日本・東洋複合1本、日本・西洋複合2本でした。今回は、今年度から取り入れたチェックリストの効果もあって、投稿論文すべてを受理することができました。このチェックリスト方式は、来年度以降も継続していきたいと思っております。

編集委員会では、ある投稿論文について、既発表論文との重複の程度が投稿規定にある未発表論文に当たるかどうか議論しました。当該論文は、既発表論文への注記があり未発表論文に当たらないと判断されましたが、重複箇所の内容については疑義も出されました。投稿規程の遵守について、今後投稿される方には十分な注意をお願いします。

- (1) 松尾由希子（静岡大学）  
幕末維新期における遠江国神職の書籍の蒐集と移動 — 養子縁組に着目して —
- (2) 坂本 紀子（北海道教育大学）  
北海道庁令「簡易教育規程」（1898年～1908年）について  
— 就学率の推移と簡易教育の実態に着目して —

- (3) 亀澤 朋恵（愛知江南短期大学）  
「文検図画科」試験問題の研究  
— 「用器画」の場合 —
- (4) 須田 将司（東洋大学）  
1930年代における学校報徳社・児童常会の端緒  
— 富山県下指定教化村の報徳教育に着目して —
- (5) 檜下 達也（神戸大学・院）  
東京市小学校ハーモニカ音楽指導研究会の設立  
（1937年）とその音楽教育史上の位置
- (6) 久恒 拓也（広島大学）  
新制大学発足時の「大学における教員養成」体制  
— 東北大学の教員審査書類の分析を中心に —
- (7) 樋浦 郷子（帝京大学）  
植民地朝鮮の「御真影」  
— 初等教育機関の場合 —
- (8) 石田 治頼（筑波大学・院）  
『イエズス会学事規程』にみる教育とハビトゥス形成

## 書評委員会内規改正について

「書評委員会内規」は、2010年3月および2014年3月の理事会において以下のように改正されましたので、ご報告いたします。

### 書評委員会内規 新旧対照表

新	旧 (2010年3月)
<p>1. 書評および図書紹介は、原則として前年度（前年9月から8月までの1年間）に刊行された著書を対象とする。</p> <p>2. <u>書評の対象として取り上げる著書は、主として会員が執筆した学術的な単著とする。ただし、非会員が執筆した学術的な単著、会員または非会員が編集した著作などを取り上げることも可とする。</u></p> <p>3. 書評は、これを取り上げ、評価することに意味があると判断されるものを対象とする。</p> <p>4. 各集の書評の本数は、10本程度を目安とする。</p> <p>5. <u>図書紹介の対象として取り上げる著書は、紹介することに意味があると判断されるもので、次のいずれかに該当するものとする。</u></p> <p style="margin-left: 20px;">①編著あるいは共著の図書</p> <p style="margin-left: 20px;">②翻訳書</p> <p style="margin-left: 20px;">③資料集</p> <p style="margin-left: 20px;">④第2項本文に該当しない単著</p> <p style="margin-left: 20px;">⑤その他、上記に準じた著書で、書評委員会が取り上げることが適当と判断したもの</p> <p>6. <u>各集の図書紹介の本数は、10本程度を目安とする。</u></p> <p>7. 著書の選定は、11月末までに行う。</p> <p>8. <u>書評委員長は、書評および図書紹介の対象の著書の選定結果を12月の機関誌編集委員会に報告する。</u></p> <p>(削除)</p> <p>9. <u>非会員に書評および図書紹介の執筆を依頼することを可とする。</u></p> <p>10. 原稿は、3月末をもって締め切りとする。</p> <p>11. <u>書評の原稿は、5,000字以内、図書紹介の原稿は、3,000字程度とする。</u></p> <p>12. <u>書評・図書紹介欄は、研究論文よりも小さい文字の2段組、追い込みとする。</u></p> <p>13. 書評委員の著作は原則として取り上げない。取り上げる場合には、執筆者である書評委員以外の書評委員全員で採否を審議する。</p>	<p>1. 書評は、原則として前年度（前年9月から8月までの1年間）に刊行された著書を対象とする。</p> <p>2. 取り上げる著書は、主として会員が執筆した学術的な単著とする。ただし、非会員が執筆した学術的な単著、会員または非会員が編集した著作などを取り上げることも可とする。</p> <p>3. 書評として取り上げ、評価することに意味があると判断されるものを対象とする。</p> <p>4. 各集の書評の本数は、10本程度を目安とする。</p> <p>5. 著書の選定は、11月末までに行う。</p> <p>6. 書評対象の著書の選定結果を12月の機関誌編集委員会に報告する。</p> <p>7. 12月中に執筆を依頼する。</p> <p>8. 非会員に書評の執筆を依頼することを可とする。</p> <p>9. 原稿は、5月末をもって締め切りとする。</p> <p>10. 原稿は、5,000字以内とする。</p> <p>11. 書評欄は、研究論文よりも小さい文字の2段組、追い込みとする。</p> <p>12. 書評委員の著作は原則として取り上げない。取り上げる場合には、執筆者である書評委員以外の書評委員全員で採否を審議する。</p>

備考：第10項以外は2010年3月理事会による改正。第10項は2014年3月理事会による改正。  
2010年3月理事会による改正が会報に未掲載でしたので、本号において報告する次第です。

## \* 図書

- ・高木博志編『近代日本の歴史都市 ―古都和城下町―』 思文閣出版 2013/7/31
- ・リチャード・オルドリッチ著・本多みどり訳『イギリス・ヴィクトリア期の学校と社会 ジョゼフ・ペインと教育の新世界』 ふくろう出版 2013/8/16
- ・慶應義塾大学大学院社会学研究科 六〇周年記念事業委員会編『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 人間と社会の探究〔別冊〕 九十九里調査 ―日本における沿岸および沖合漁業に関する総合調査―』 慶應義塾大学大学院社会学研究科 2013/9/30
- ・明治学院百五十年史編集委員会『明治学院百五十年史』 学校法人明治学院 2013/11/1
- ・青年寄宿舎舎友会編『宮部金吾と舎生たち―青年寄宿舎 107 年の日誌に見る北大生―』 北海道大学出版会 2013/11/3
- ・広田照幸・橋本伸也・岩下誠編『福祉国家と教育 ―比較教育社会史の新たな展開に向けて―』 昭和堂 2013/11/15
- ・横尾恒隆『アメリカにおける公教育としての職業教育の成立』 学文社 2013/12/10
- ・高橋寛人『危機に立つ教育委員会 教育の本質と公安委員会との比較から教育委員会を考える』 クロスカルチャー出版 2013/12/10
- ・佐藤幹男『戦後教育改革期における現職研修の成立過程』 (株) 学術出版会 2013/12/15
- ・森川潤『青木周弼の西洋医学学校構想』 雄松堂書店 2013/12/27
- ・菱刈晃夫『習慣の教育学 思想・歴史・実践』 知泉書館 2013/12/30
- ・森川輝紀・増井三夫編著『論集 現代日本の教育史 5 公共性・ナショナリズムと教育』 日本図書センター 2014/1/25
- ・船寄俊雄編著『論集 現代日本の教育史 2 教員養成・教師論』 日本図書センター 2014/1/25
- ・明治学院百五十年史編集委員会『明治学院百五十年史 主題編』 学校法人明治学院 2014/1/26
- ・池田雅則『私塾の近代 越後・長善館と民の近代教育の原風景』 東京大学出版会 2014/1/30
- ・滝内大三『未完の教育学者―谷本富の伝記的研究―』 晃洋書房 2014/3/10
- ・林透『高等教育における視学委員制度の研究―認証評価制度のルーツを探る―』 東信堂 2014/3/15

- ・小峰総一郎『ポーランドの中の《ドイツ人》―第一次世界大戦後ポーランドにおけるドイツ系少数者教育―』 学文社 2014/3/30
- ・関東学院大学キリスト教と文化研究所バプテスト研究プロジェクト編『バプテストの教育と社会的貢献』 関東学院大学出版会 2014/3/31
- ・塩原佳典『名望家と<開化>の時代 地域秩序の再編と学校教育』 京都大学学術出版会 2014/3/31
- ・山本正身『日本教育史 教育の「今」を歴史から考える』 慶應義塾大学出版会 2014/4/25

## \* 紀要・ニューズレターなど

- ・『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』 第 60 巻第 1 号 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 2013/9/1
- ・『一八八〇年代教育史研究年報』 第五号 一八八〇年代教育史研究会 2013/10/1
- ・『武蔵大学人文学会雑誌』 第 45 巻第 1・2 号 武蔵大学人文学会 2013/11/29
- ・『大学教育学会誌』 第 35 巻第 2 号 (通巻第 68 号) 大学教育学会 2013/11/30
- ・『ディルタイ研究』 第 24 号 日本ディルタイ協会 2013/11/30
- ・『教育史研究室年報』 第 19 号 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育史研究室 2013/12/1
- ・『川合章さんの教育研究・運動の 60 年』 埼玉大学教育学部川合研究室・清水研究室卒業生有志の会 2013/12/14
- ・『1880 年代におけるエリート養成機能形成過程の研究―高等学校成立史を中心に― 研究成果報告書』 荒井明夫 (研究代表者) 2014/1/15
- ・『教育史・比較教育論考』 第 21 号 北海道大学教育学部教育史・比較教育研究グループ 2014/1/31
- ・『立教学院史研究』 第 11 号 立教学院史資料センター 2014/2/20
- ・『筑波大学 教育学系論集』 第 38 巻 筑波大学人間系教育学域 2014/3/1
- ・『武蔵大学人文学会雑誌』 第 45 巻第 3・4 号 武蔵大学人文学会 2014/3/14
- ・『日本教育史学会紀要』 第 4 巻 日本教育史学会 2014/3/20
- ・『教育論叢』 第 57 号 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教育科学専攻 2014/3/21

- ・『中央大学史資料集』第二十六集 中央大学入学センター事務部大学史編纂課 2014/3/25
- ・『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』第60巻第2号 名古屋大学大学院教育発達科学研究

- 科 2014/3/31
- ・『大学教育学会ニュースレター』No.96 大学教育学会 2014/4/15

## 事務局からのお知らせ

### 1. 書評委員の選出について

2014年3月理事会にて次年度書評委員を選出いたしました。選出された委員は以下の通りです。

#### ■第58集書評委員

- 日本：船寄 俊雄（神戸大学）  
坂本 紀子（北海道教育大学）  
木村 政伸（新潟大学）
- 西洋：宮本健市郎（関西学院大学）  
遠藤 孝夫（岩手大学）
- 東洋：新保 敦子（早稲田大学）  
佐藤 由美（埼玉工業大学）

### 2. 会費納入のお願い

2013年9月より第57回大会年度がスタートしております。今年度及び過年度会費をお支払いいただいていない会員には、振込用紙を同封させていただきました。すみやかな納入にご協力ください。

なお、年会費は「ゆうちょ銀行」（郵便局口座）からの自動引き落としにより納入できます。会員のみならずの便宜と事務効率化のために、自動引き落としにご協力をお願いします。自動引き落としをご希望の方は事務局まで申し出てください。必要書類をお送りいたします。

### 3. 会員登録について

現在、次の方々住所不明となっております。お心当たりの方がいらっしゃいましたら、事務局までご一報くださるようお願いいたします。なお、会員登録内容の変更は、ご本人からのお申し出によってのみ可能となります。

### 4. 会員登録変更等について

事務局や機関誌編集委員会などからの学会事務にかかわる連絡においては、ご登録いただいた連絡先を使用させていただいておりますが、宛先がちがいで戻ってくるものがけっこうあります。ご登録いただいた連絡先に変更等が生じた場合、忘れずに事務局までご一報ください。

2014年5月  
学会事務局 八鍬 友広

教育史学会 会報 No. 115 2014年5月25日

編集・発行 教育史学会事務局 八鍬友広  
〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1  
東北大学大学院教育学研究科  
八鍬友広研究室 気付  
電話 022 (795) 6117  
電子メール mail@kyouikushigakkai.jp  
郵便振替口座 00140-0-552760 教育史学会事務局

印刷 城島印刷株式会社